

館外貸出要求に応じられなかった
雑誌及びその理由の調査

An Analysis of Dissatisfied Circulation
Requests for Periodicals

津田良成
Yoshinari Tsuda

Résumé

To analyse all elements that resulted the dissatisfied circulation requests at the charging desk of Kitasato Memorial Medical Library, Keio University, a study was made by using specially designed slips to record all these requests asked in 67 days from October 19th, 1964 to the end of the year. The objectives of the study were; i) To count all the dissatisfied circulation requests for periodicals and find the causes which prevented the library to meet the user's needs, so that the library can take a step to reduce the number of their occurrence; ii) Even when a request for a periodical was turned down because a particular issue of a particular periodical had already been loaned out to someone else, this does not change the fact that the library could not meet a user's requests for the journal. Therefore, the library wanted to find out what issues of what titles were asked for, when they had already been loaned out, in order to decide which periodicals need duplicates; iii) To correct a part of the defects in preparing a list of most used periodicals by the circulation counting method, it is necessary to give a consideration to all unrevealed dissatisfied requests for circulation; iv) To find out the percentage of the dissatisfied circulation requests which were finally satisfied through inter-library loan service against all dissatisfied circulation requests.



The results obtained are as follows; i) The total of circulation requests for journal issues in these 67 days was 10,114 including 5,768 photo-duplication requests and 498 dissatisfied requests. The percentage of the dissatisfied requests to the total of requests was 4.9%. These 498 dissatisfied requests included 247 "the library does not have", 40 "lacking volume, issue or page", 22 "missing", 103 "on loan", 9 "at bindery", 10 "not yet arrived", 56 "unexplained", and 11 "other miscellaneous reasons"; ii) There were 71 titles, 103 volumes and issues which could not satisfy the requests because of their being "on loan". Most of these titles were on the list of the most used periodicals compiled by the circulation counting method. And most of the volumes and issues requested were those in the range of last five years; iii) However, the actual figures of dissatisfied circulation requests were not as high as they were supposed, therefore the neglect of them would not affect the result of circulation counting drastically; iv) Among all dissatisfied circulation requests of 498, only 85 (17.1%) were further asked to obtain through inter-library loan service. This fact suggests that in most cases when medical researchers are

津田良成：慶応義塾大学医学部北里記念医学図書館。Yoshinari Tsuda, Librarian, Kitasato Memorial Medical Library, Keio University.

in need of literature they need them right there and not somewhere else nor later on. During this survey period 63 more periodicals were requested through inter-library loan from other libraries, without being asked at the circulation desk. This means there are fairly large number of dissatisfied circulation requests which were not revealed by the present study.

- I. は し が き
- II. 調 査 目 的
- III. 調 査 方 法
- IV. 調 査 の 結 果
- V. 結 果 の 分 析
- VI. 結 論

I. は し が き

最近の自然科学分野の図書館は、ただたんに要求されている分野の資料を収集して、利用者がそれを必要とするときに容易に利用出来るように配置しておけばよいというのではなく、それらの資料の利用面でもっと積極的に利用者と協力して行かなければ責任を十分に果しているとは言われなくなって来た。

そのためには、利用者が自分の求める資料に自由に近づける自由接架の必要もさることながら、求めに応じて要求のあった資料を必ず提供出来るような態勢をととのえていることも必要であり、さらに、研究者のためにその研究題目に関係のある文献を探索したり、特定の事実をハンドブック、データブックなどを使用して見付けたり、時には抄録や翻訳を行ったりし、又企業体、研究所等の図書・資料室では、雑誌論文、技術報告書などの索引を作り、その利用を便にする仕事が求められて来ている。このような、研究者を対象としたドキュメンテーションとか科学情報サービスとか呼ばれる積極的なサービスは今後益々盛んになるであろうが、その発展の裏付けとしては、要求された資料は必ず提供出来るというシステムが存在しなければならない。

「貴方の研究題目AについてはBという文献がありますが、当図書館では所有しておりません」では多忙な研究者にとってはたいした助けにはならない。なんとと言っても、「要求された主題に関する文献はここにあります」と言ってすぐに提供出来ることが望ましい。しかしながら現在のように、科学分野の雑誌論文のみでも年間優に100万を超える数で現われる時代に、個々の図書館でその利用者が必要とする資料を全て備えておくことは不可能である。そこで図書館の協力態勢をしき、相互貸借を

行うことにより、国内は勿論国外の図書館とも資料を融通し合えるようにし、少くとも一定の時間をかけさえすれば求められた文献を必ず提供し得るようになっていなければならない。この点では、医学図書館の場合には日本の他分野の図書館に先駆けて既に戦前よりメンバー館間の相互貸借を行っており、その所蔵雑誌のユニオン・リストや洋書のユニオン・カタログなどの協力作業に必要な資料も何回も編纂されており、戦後にはそのメンバーも増し、現在では日本の全ての大学医学図書館46館と3館の歯学図書館が協会に加盟しており、加盟館以外の大きな研究所、病院などの図書室でもユニオン・リストには参加して、非公式ながらも実際には相互貸借のネットワークを利用している。国内で間に合わない資料については、本当の意味での国際間の相互貸借は未だ確立していないが、世界中の医学文献の収集を狙っている米国立医学図書館からは複製コピーで送って貰えることになっている。即ち一方的に恩恵を受けている立場ではあるが、或程度の国際間の相互貸借は行われており、2・3ヶ月の日時をかけさえすれば、日本国内にない資料でも入手出来るようになっている。

しかしながら、自然科学分野の研究では資料の入手に一刻を争うことも多いので、如何なる理由にせよ、図書館に貸出を申込みれた時に即座に満足出来ないことがあれば、十分な図書館活動とは言えないであろう。そこでどんな場合に資料の利用要求を満たせないでいるかを調べてその内容を分析し、原因を確かめ、利用要求をその場で満足させることが出来ないケースを減らしてゆくように努めることが必要である。

II. 調 査 目 的

慶応義塾大学医学部の北里記念医学図書館では、その資料の利用が盛んになればなる程、貸出のカウンターでの利用者の貸出要求に応じられない場合が増えてくるといふ事実を重視し、次のような目的のためにその実態調査を行うことにした。

- i) 雑誌の貸出要求に応じられなかった場合の回数と理由を明確にし、その対策を考える参考とする。
- ii) 特に「貸出中」という答は「所有せず」という答

と結果的に同じであると考え、どの様な雑誌がどれ程“貸出中”に要求されているかを調査し、貸出要求が特に集中する雑誌の2部目又は3部目の購入を考慮する。

iii) 実際に利用された記録のみに依る雑誌の利用頻度調査の欠陥の一部を補い、潜在的利用要求も考慮に入れる。

iv) 貸出要求に応じられなかった場合、どの位の割合でそれが他の図書館から相互貸借の形で借り出されているかということ調べ、全く要求に応じられなかった場合の件数を正確に知ると共に、果して相互貸借にかかる時間を待つことの出来る要求がどれ程あるかを知ると同時に、医学の分野では資料が即座に入用であって待つことが出来ないというケースはどの位の割合で起るものであるかを推測する材料にする。

III. 調査方法

昭和39年(1964)10月19日より同年末迄の開館日67日間に、慶応義塾大学医学部図書館の貸出カウンターに於て雑誌の貸出要求を満たせなかった全ての場合を記録し、集計を次の8つの項目に分けて行った。

- 1) 所蔵なし
- 2) 欠号・欠本・落丁
- 3) 不明(要求された資料を図書館が所有している筈であるのに、その所在が判明しなかった場合)
- 4) 紛失(完全に紛失と断定されている場合)
- 5) 貸出中
- 6) 製本中
- 7) 未着(資料が図書館に到着する以前に貸出要求のあった場合)
- 8) その他の理由

なお項目の1から4迄は、結局当図書館では全く利用要求に応じ得なかった場合であり、5から8迄の項目は、一定の期間が過ぎれば利用に応じ得た場合であった。

調査対象の資料を雑誌のみにした理由は、雑誌と単行本では利用のされかた、扱われかたなどが大きく違うので、統一的に集計出来ないこと、医学図書館では雑誌の利用が単行本を遙かに上廻り、この利用を満足させることが先決問題であるからである。

調査には第1図のような調査票が用いられ、貸出要求を満たせなかった場合が生ずる度に、その要求を受けた係員が調査票の該当欄にレ印をつけるという方法が採られた。但し、「その他の理由」の項目には、特にその

理由を簡単に記すことが求められた。

第1図 調査票及びその記載例

誌名		年月日 39. 11. 2					
Federation Proceedings		取扱者 Ha					
巻	号	年	貸出中	製本中	所蔵なし		
8		1949					
紛失	不明	複写中	予約中	新着展示	L.B.	その他の理由	

利用を満足させることが出来ない場合としては次の様な理由が予め想定されていた。即ち、i) 貸出中、ii) 製本中、iii) 所蔵なし、iv) 紛失、v) 不明、vi) 複写中、vii) 予約中、viii) 新着展示、ix) L. B. (図書館内仮製本中)、x) その他の理由、の10項目であった。しかし実際の集計に当っては、出て来た結果に基づき、これを変更して前述の8項目にまとめあげた。

図書館の貸出係は夜間勤務のパート・タイマー7名を含めて11名居り、それらの係員全体が調査の意義を十分に理解するために、予めその目的とするところを繰返し説明し、調査の趣旨の徹底に努めた。調査期間中の開館時間は日曜日の正午から午後5時、12月20日以降の午前9時から午後5時迄を除くと、全て午前9時から午後8時迄であった。

IV. 調査の結果

調査期間中の実際の雑誌貸出数は3,848冊(洋雑誌2,589冊、和雑誌1,259冊)。又複写の形で利用された雑誌は5,768冊(洋雑誌4,843冊、和雑誌925冊)であった。調査の結果は第1表のとおりであった。調査用紙をブロンする時に考えられた要求を満たし得ない理由の項目は、貸出係などの考えに基づいて決められたものであったが、実際の集計に当って、複写中、予約中(資料は図書館にあるが、他の者の予約申込みがあって貸出せなかったもの)、新着展示中、L. B. の諸項目に該当したケースは、予約中の2回、及びL. B. の2回のみで、図書館で購入している筈のものが欠号・欠本・落丁などの理由で要求を満たせなかった場合が意外に多かったところか

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

第1表 利用要求に応じられなかった雑誌の理由集計

項	目	洋雑誌 (冊数)	和雑誌 (冊数)	合 計 (冊数)
1	所蔵なし	228	19	247
2	欠号・欠本・落丁	34	6	40
3	不明	43	13	56
4	紛失	15	7	22
小 計		320	45	365
5	貸出中	80	23	103
6	製本中	8	1	9
7	未着	6	4	10
8	その他の理由	8	3	11
小 計		102	31	133
合 計		422	76	498

ら、予約中、L.B.、回覧中(回覧雑誌として、関係教室に1週間の期間で新着展示直後に回覧されているもの)、回覧中などの場合を一括してその他の理由とし、新たに欠号・欠本・落丁を1項目にまとめた。又3番目の項目の“不明”とは、所有している筈の雑誌が要求された時に見付からず、しかもその理由の判らないもので、1から4迄の項目のものは、3の不明中のもの、もしくは4の紛失とされているものが偶々出てこない限り、全て北里記念医学図書館では利用出来ない資料に対する要求で、5から8までの4項目に属するものは、図書館の持っている資料が一時的に利用に応じられない状態にあるもので、一定期間さえ待てば使用出来るものである。これらの項目の百分率をみると、次の第2表のようになる。即ち図書館に存在しない雑誌に対する利用要求が利用に応じられなかったケースの73.2%(洋雑誌64.2%、和雑誌9.0%)を占めており、“不明”の一部を除き、雑誌そのものがないために利用に応じられなかった場合が50%を超えている。

北里記念医学図書館の所蔵していない雑誌に対して申込みがあり、“所蔵なし”の理由で要求を満たし得なかった場合が2回以上あった雑誌を、要求された回数の多かった順に並べたのが第3表である。

ここで“所蔵なし”に入れたものの中には次の3つのグループがある。即ち、

- 1) 当図書館で一度も入手したことがないもの
- 2) 特定期間のみ所蔵しているもの
- 3) 一定期間入手が中断されたもの

第2表 利用要求に応じられなかった雑誌の項目別百分率

項 目	小計からみた %			全体からみた %			
	洋雑誌	和雑誌	計	洋雑誌	和雑誌	計	
1. 所蔵なし	62.5	5.2	67.7	45.8	3.8	49.6	
2. 欠号・欠本・落丁	9.3	1.6	10.9	6.8	1.2	8.0	
3. 不明	11.8	3.6	15.4	8.6	2.6	11.2	
4. 紛失	4.1	1.9	6.0	3.0	1.4	4.4	
小 計	87.7	12.3	100	64.2	9.0	73.2	
5. 貸出中	60.1	17.3	77.4	16.1	4.6	20.7	
6. 製本中	6.0	0.8	6.8	1.6	0.2	1.8	
7. 未着	3.0	4.5	7.5	0.8	1.2	2.0	
8. その他の理由	6.3	2.3	8.3	1.6	0.6	2.2	
小 計	75.1	24.9	100	20.1	6.6	26.7	
				合計	84.3	15.6	99.9

である。又備考欄が空白のものはグループ1)に属するもので、刊年のあとに--の印のある場合は、その刊年から現在まで継続して入手していることを示し、刊年のあとに・印のあるものはその期間入手が中断されていることを示し、刊年のあとに何も印のない場合はその期間の巻号のみを所蔵することを意味する。

第3表を貸出要求のあった巻号の年代別に集計し、その百分率を示したのが第4表である。

次に、図書館で現在カレントに入手している雑誌ではあるが、たまたま要求された巻号が欠号・欠本・落丁などの理由で貸出要求に応じられなかった雑誌を、その巻号の刊年別に集計すると第5表のようになった。

貸出要求を受けた際、理由が不明のまま現物が見当らず、遂に利用に応じられなかった雑誌を、その巻号の刊年別に集計すると、第6表のようになった。この場合“不明”であった理由として種々の可能性が考えられ、実際には紛失しているのに未だはっきり“紛失”と断定されていない場合ばかりでなく、そのうちのあるものは間違っって書架に配架されていたりして、現実には図書館内に存在することも考えられるが、何れにしても第1表での5から8迄の項目のように一定期間がたてば必ず雑誌が貸出要求に応じられる状態になるという訳ではないので、当図書館に雑誌が存在しないため貸出要求に応じられない項目の一つとして取扱った。

第3表 “所蔵なし” のために利用要求に応じられなかった雑誌

誌名	要求のあった巻号の刊年及び冊数						合計 (冊数)	備考
	1964~ 1960	1959~ 1955	1954~ 1950	1949~ 1945	1944~ 1940	1939~		
* 1 Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics				2	4		6	1909 -- 1934~1949 .
* 2 Acta Chirurgica Scandinavica		3			2		5	1956 --
* 3 Biochimica et Biophysica Acta			4				4	1954 --
4 Concour Medical	1	3					4	
* 5 Scandinavian Journal of Clinical and Laboratory Investigation	2	2					4	1962 --
* 6 Acta Radiologica		2			1		3	1921 -- 1933~1956 .
7 Angewandte Chemie	3						3	1932
* 8 Archives of Pathology				1	1	1	3	1942 -- 1943~1946 .
* 9 Archiv für Physikalische Therapie					3		3	1962 --
*10 Biochemische Zeitschrift					3		3	1906 -- 1942~1946 .
11 Bulletin de la société française de dermatologie et de syphiligraphie			1			2	3	
*12 Clinical Science		3					3	1959 --
*13 Journal of Clinical Pathology		3					3	1959 --
14 Journal of Dairy Science	1	2					3	
*15 Journal of General Physiology			3				3	1918 -- 1943~1953 .
*16 Journal of Investigative Dermatology			2		1		3	1947 -- 1951~1952 .
*17 Acta Anaesthesiologica Scandinavica	1		1				2	1963 --
*18 Acta Medica Scandinavica			2				2	1954 --
*19 Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica			2				2	1957 --
*20 American Journal of Medicine				2			2	1948 --
*21 American Journal of the Medical Sciences						2	2	1924 -- 1925~1933 . 1935~1936 .
22 Antibiotic Medicine and Clinical Therapie		2					2	
23 Archives de Biologie	2						2	1926~1940
24 Australasian Annals of Medicine	2						2	
25 Biologica Latina	2						2	
*26 British Journal of Experimental Pathology			1		1		2	1924 -- 1942~1954 .
27 Bulletin de la Société internationale de chirurgie	2						2	
28 Clinica Chimica Acta	2						2	
29 Clinical Medicine	1	1					2	
30 Comptes rendus hebdomadaires des séances de l'Académie des sciences	1		1				2	

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

誌名	要求のあった巻号の刊年及び冊数						合計 (冊数)	備考
	1964~ 1960	1959~ 1955	1954~ 1950	1949~ 1945	1944~ 1940	1939~		
*31 Dermatologica		1	1				2	1939 -- 1941~1961 •
*32 Diabetes		1	1				2	1959 --
*33 Electroencephalography and Clinical Neurophysiology (Supplements)			2				2	1949 -- Supplements •
34 Enzymologia	1		1				2	1936/37~1940
*35 Fertility and Sterility			2				2	1953 --
*36 Journal of General Microbiology				2			2	1954 --
*37 Journal of Nervous and Mental Diseases					2		2	1919 -- 1920~1946 •
38 Journal of the Royal College of Surgeons of Edinburgh	2						2	
39 Laboratory Investigation	1	1					2	
40 Medical Journal and Record						2	2	
*41 Nature				2			2	1924 -- 1939~1947 •
42 Physical Therapy Review		2					2	1948~1951
*43 Problemy Tuberkuleza	2						2	1962 --
44 Revista Paulista de Medicina	2						2	
45 日本農芸化学会雑誌	2						2	
46 日本超音波医学研究会講演会	1		1				2	
合計	31	26	25	9	18	7	116	

注： --は継続。•は中断もしくは欠号。マークなしは所蔵を意味する。*は現在購入している雑誌。

第4表 “所蔵なし” の雑誌の年代別集計

年代	冊数	%
最近5年間の巻号	31	26.7
6年目から10年迄	26	22.4
11年目から15年迄	25	21.6
16年目から20年迄	9	7.8
21年目から25年迄	18	15.5
26年以上古い巻号	7	6.0
合計	116	100

第5表 “欠号・欠本・落丁” という理由で貸出要求に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計

巻号の刊年	貸出要求に応じられなかった冊数			%
	洋雑誌	和雑誌	合計	
1964~1960	3	2	5	12.5
1959~1955	14	3	17	42.5
1954~1950	7	1	8	20.0
1949~1945	4	0	4	10.0
1944~1940	5	0	5	12.5
1939~	1	0	1	2.5
合計	34	6	40	100

“紛失” のため貸出要求に応じられなかった雑誌を、その巻号の刊年別に集計すると第7表となった。

第8表は“貸出中” の雑誌に対して貸出を要求されて、

利用に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計である。

第 6 表 “不明” という理由で貸出要求に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計

巻号の刊年	貸出要求に応じられなかった冊数			%
	洋雑誌	和雑誌	合計	
1964~1960	19	10	29	51.8
1959~1955	2	3	5	8.9
1954~1950	12	0	12	21.4
1949~1945	3	0	3	5.35
1944~1940	3	0	3	5.35
1939~	4	0	4	7.2
合計	43	13	56	100

第 8 表 “貸出中” のため貸出要求に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計

巻号の刊年	貸出要求に応じられなかった冊数			%
	洋雑誌	和雑誌	合計	
1964~1960	52	21	73	70.9
1959~1955	14	2	16	15.5
1954~1950	9	0	9	8.7
1949~1945	0	0	0	0
1944~1940	1	0	1	1.0
1939~	4	0	4	3.9
合計	80	23	103	100

第 7 表 “紛失” という理由で貸出要求に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計

巻号の刊年	貸出要求に応じられなかった冊数			%
	洋雑誌	和雑誌	合計	
1964~1960	3	3	6	27.3
1959~1955	7	0	7	31.8
1954~1950	2	0	2	9.1
1949~1945	0	0	0	—
1944~1940	2	0	2	9.1
1939~	1	4	5	22.7
合計	15	7	22	100

第 10 表 “その他の理由” で貸出要求に応じられなかった雑誌の内容

理 由		雑誌数	冊 数
1.	他の利用者の予約がなされていたため	2	3
2.	教室閲覧中のため	1	3
3.	図書館内での仮製本 (L.B.) 中のため	2	2
4.	閲覧中のため	1	1
5.	発注過程にあったため	1	1
6.	利用者持参の参照が不備であったため	1	1
合計		8	11

第 9 表 “未着” のため貸出要求に応じられなかった雑誌のリスト

誌 名	発行回数	刊 年	巻 号	冊 数
1. Archives of Internal Medicine	月 刊	1964	v. 113, n. 2	1
2. Deutsche Medizinische Wochenschrift	週 刊	1964	v. 89, n. 43	1
3. Ergebnisse der Physiologie, Biologischen Chemie und Experimentellen Pharmakologie	年 刊	1963	v. 53	1
4. Newzealand Medical Journal	月 刊	1963	v. 62, n. 366	1
5. 薬学雑誌	月 刊	1964	v. 84, n. 10 (2) n. 11	3
6. 耳鼻咽喉科	月 刊	1964	v. 36, n. 11	1
7. 条件反射	不 定	1963	v. 53	1
8. 日本薬理学雑誌	隔月刊	1964	v. 60, n. 6	1

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

第9表は要求された時には現物が未着であったため要求に応じられなかった雑誌のリスト。第10表は“その他の理由”で利用者の貸出要求を満足させ得なかった雑誌の理由の項目別集計表である。

以上は図書館の貸出のカウンターで利用要求を満足させることが出来なかった雑誌を、その理由の項目毎に調査したものであるが、この総冊数498冊中85冊、17.1%は結局相互貸借のサービスを利用して、他の図書館から借り出し、利用者の要求を満たした。なおこのうちの3冊は国外(米国立医学図書館)から複写コピーの形で入手して提供した。同調査期間中に相互貸借のサービスを使って他の図書館から借り受けた冊数は148冊で、同期間中の雑誌の館外貸出総冊数は3,848冊、複写による貸出冊数は5,768冊、合計利用冊数9,616冊であった。また貸出のカウンターで種々の理由でその要求が満たされず、改めて相互貸借により他の図書館から借り出すことを求めたものは、調査期間中の相互貸借による借り出し総数148冊中85冊で、残りの63冊、42.6%は利用者が始めから何らかの方法で当図書館に所蔵されていないことを知って、カウンターで所蔵の有無を尋ねることなしに直接相互貸借を申込んだものである。相互貸借を申込んだ雑誌148冊の内容は第11表のとおりである。

第12表は、これら相互貸借に依って終局的には利用者の要求を満たすことが出来た雑誌を、“所蔵なし”、“欠本・欠号・落丁”、“紛失”などの本調査で使用されたカテゴリー別にリストし、カウンターで貸出要求に応じられなかった冊数に対しての百分率を示したものである。

北里記念医学図書館の統計を参考にあげると、1964年(昭和39年)4月1日から1965年(昭和40年)3月31日迄の館外貸出総冊数は40,326冊で、このうち雑誌は18,573冊(洋雑誌13,035冊、和雑誌5,538冊)で、複写申込件数は29,034件、229,445枚、複写による貸出総冊数は29,713冊であった。また年間相互貸借総冊数は5,200冊、そのうち他の図書館に対しての貸出しは4,248冊、他の図書館からの借出しは952冊で、米国立医学図書館から複写コピーで送って貰った冊数は67冊であった。

V. 結果の分析

統計に依ると、1964年(昭和39年)3月31日より1965年(昭和40年)3月31日迄の1年間の館外貸出総冊数は、現物によるものとしては、単行本、雑誌を含めて40,326冊、そのうち雑誌が18,573冊で46.1%ほどにしかなら

ない。しかし複写の形で利用された資料は雑誌、単行本を合せて29,713冊で、そのうち雑誌は大多数の29,338冊となっている。即ち、最近では館外貸出は、部厚い単行本は別として、比較的頁数の少い雑誌論文などはゼロックスなどの複写のコピーの形で利用される場合が多くなっている。それで当図書館では複写は館外貸出の一形式と考えられている。従って、昨会計年度1年間に利用された資料のうち、全館開架の館内で自由に使用されたものを除いて、複写・相互貸借を含めた当館の館外貸出総数は70,039冊となり、そのうち雑誌は47,911冊、68.5%であった。なおこのうち、調査期間中、即ち、1964年(昭和39年)10月19日より同年末迄の雑誌の館外利用冊数は、複写によるものを含めて9,616冊となっている。

ところで、この期間に図書館のカウンターで、雑誌の貸出要求を何らかの理由で満足させ得なかった冊数は第1表に示されているとおり、総計498冊で、同期間中の雑誌の館外利用要求の総数10,114冊のわずか4.9%にしかならない。しかもこの498冊中85冊(17.1%)は相互貸借により他の図書館から借りうけて、結局は要求を満たしているもので、最後迄要求を満足させ得なかったものは413冊、4.1%となっている。ただしここで注意しなければならないことは、確かに貸出要求を満たせなかった雑誌の冊数こそわずか4.1%であったが、調査期間67日中の413冊は平均すると毎日6.2冊に対する要求を満たさなかったことになり、その6.2冊の中に研究者にとって非常に重要な意味を持つ資料が含まれてい得ることである。またカウンターでの忙しい仕事の合間に、利用を満足させ得なかったケースを、当事者である係員に記録させたため、或程度の記録もれの有り得ることも考えられ、実際の数はもう少し上廻るのではないかと予想される。その上調査期間中の相互貸借の数148冊が示すように、貸出カウンターで尋ねられて、何らかの理由で貸出に応じられないことが判り、改めて相互貸借に申込まれた85冊のほかに63冊もの雑誌がカウンターでその所蔵の有無も尋ねられずに直接相互貸借に申込まれている。この事実は、本調査で判明したもの以外にも、利用者自身が何らかの方法で、求める資料が図書館にないことを知って、直接相互貸借を利用するなり、その資料を使用することを全くあきらめるなり、または自身でその資料を所蔵する図書館に行って読んでくるなりするような場合が或程度存在することを意味する。

第 11 表 貸出要求を満足させ得なかつた雑誌で調査期間中に相互貸借により
他の図書館から借りた雑誌

誌名	刊年						冊数	理由
	1964~1960	1959~1955	1954~1950	1949~1945	1944~1940	1939~		
* 1. Angew. Chem. (Eng.)	4				1		5	所蔵なし
* 2. Bull. Soc. Franc. Derm. Syph.			1				4	"
3. Experimentia	4						4	"
4. Acta. Ophthal.		3					3	"
* 5. Brain						3	3	"
* 6. Scand. J. Clin. Lab. Invest.	1	2					3	"
* 7. Aust. Ann. Med.	2						2	"
* 8. Brit. J. Exp. Path.			1		1		2	"
* 9. Canad. Med. Ass. J.		1				1	2	欠本 所蔵なし
10. Chirurg.				2			2	所蔵なし
* 11. Clin. Chim. Acta.	2						2	"
* 12. Clin. Sci.		1		1			2	"
13. Dermatologica		1	1				2	"
* 14. Endocrinology					2		2	欠本
* 15. J. Clin. Invest.				2			2	"
16. J. Clin. Path.		1	1				2	所蔵なし
* 17. J. Gen. Microbiol.				2			2	"
18. J. Gen. Physiol.			2				2	"
* 19. Med. World	2						2	"
20. Minerva Med.	2						2	"
21. Phys. Ther. Rev.		2					2	"
22. Radiat. Res.	2						2	"
23. Vox Sang.	2						2	"
* 24. Acta Biol. Me. German.	1						1	"
* 25. Acta Chir. Scand.		1					1	"
26. Acta Cytol.		1					1	"
27. Acta Med. Scand.			1 (Suppl)				1	"
28. Acta Obstet. Gynec. Scand.			1				1	"
* 29. Acta Paediat.	1						1	"
* 30. Acta Tuberc. Scand.			1				1	不明
* 31. Amer. J. Hosp. Pharm.	1						1	所蔵なし
* 32. Amer. J. Med.				1			1	"
33. Amer. J. Phys. Med.			1				1	"
34. Amer. J. Physiol.					1		1	"
* 35. Amer. J. Proctol.	1						1	"
* 36. Ann. Derm. Syph.			1				1	"
* 37. Ann. N. Y. Acad. Sci.		1					1	欠本
* 38. Arch. Gewerbepath. Gewerbehyg.		1					1	所蔵なし
* 39. Arch. Exp. Path. Pharm.						1	1	欠本

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

誌名	刊年						冊数	理由
	1964~1960	1959~1955	1954~1950	1949~1945	1944~1940	1939~		
* 40. Arch. Mal. Coeur.						1	1	所蔵なし
* 41. Arch. Phys. Ther.					1		1	"
42. Arch. Surg.		1					1	欠号
* 43. Arztl. Forsch.	1						1	所蔵なし
44. Boll. Soc. Ital. Biol. Sper.		1					1	"
45. Brit. J. Ophthal.				1			1	"
* 46. Brit. Med. Bull.	1						1	欠号
* 47. Bull. John Hopk. Hosp.					1		1	欠本
* 48. Canad. J. Biochem. Physiol.	1						1	所蔵なし
49. Clin. Med.		1					1	"
* 50. Clin. Pharmacol. Ther.	1						1	"
* 51. Dokl. Akad. Nauk SSSR.						1	1	"
* 52. Edinb. Med. J.						1	1	"
* 53. Encéphale				1			1	"
* 54. Enzymologia	1						1	"
55. Fertil. Steril.			1				1	"
56. Gynaecologia				1			1	"
57. Hautarzt			1				1	"
58. Helv. Chim. Acta					1		1	"
* 59. Hosp. Topic.	1						1	"
* 60. Indian J. Med. Sci.	1						1	"
61. Int. Arch. Allerg.	1						1	"
* 62. Int. Z. Vitaminforsch.	1						1	"
* 63. J. Bone Joint Surg.			1				1	不明
64. J. Chem. Soc.					1		1	所蔵なし
65. J. Embryol. Exp. Morph.	1						1	"
* 66. J. Immun					1		1	"
* 67. J. Int. Coll. Surg.	1						1	"
* 68. J. Invest. Derm.			1				1	"
* 69. J. Iowa Med. Soc.					1		1	"
70. J. Lab. Clin. Med.						1	1	不明
* 71. J. Ment. Sci.		1					1	所蔵なし
* 72. J. Nerv. Ment. Dis.					1		1	"
* 73. J. Neuropath. Exp. Neurol.			1				1	"
74. J. Nucl. Med.	1						1	(N.L.M.)
75. J. Pharm. Pharmacol.			1				1	所蔵なし
76. J. Roy. Coll. Surg. Edinb.	1						1	(N.L.M.)
77. Klin. Wschr.	1						1	その他の理由 (L.B.)
* 78. Lab. Invest.		1					1	所蔵なし
79. Lunds Univ. Arsskr.	1						1	"
* 80. Maryland Med. J.	1						1	"
* 81. Med. Times		1					1	"

Library Science No. 3 1965

誌名	刊年						冊数	理由
	1964~ 1960	1959~ 1955	1954~ 1950	1949~ 1945	1944~ 1940	1939~		
* 82. Meth. Med. Res.	1						1	所蔵なし
83. Mschr. Psychiat. Neurol.				1			1	"
84. Nervenarzt		1					1	"
85. Neue Oest. Z. Kinderheik.	1						1	"
86. Neurol. Zbl.						1	1	"
87. Northwest Med.	1						1	"
88. Nuclearmedizin	1						1	"
* 89. Pharmacol. Rev.		1					1	紛失
* 90. Proc. Nat. Acad. Sci. USA			1				1	不明
* 91. Quart. Rev. Pediat.		1					1	紛失
* 92. Rev. Asoc. Med. Argent.		1					1	所蔵なし
93. Rev. Tuberc.	1						1	"
* 94. Rocky Mountain Med. J.	1						1	"
* 95. Schweiz. Z. Allg. Path.		1					1	"
* 96. Scot. Med. J.	1						1	" (N.L.M.)
97. Surgery		1					1	欠号
* 98. Surg. Gynec. Obstet.		1					1	欠本
* 99. Texas J. Med.	1						1	所蔵なし
*100. Trans. Amer. Neurol. Ass.	1						1	"
101. Tritium Physiol. Biol. Sci.	1						1	"
*102. Tubercle		1					1	"
*103. Wien Med. Wschr.						1	1	不明
*104. Wisconsin Med. J.		1					1	所蔵なし
*105. Z. Haut Geschlechtskr.		1					1	"
106. Z. Laryng. Rhinol. Otol.		1					1	"
107. Z. Nat. Med.						1	1	不明
108. Z. Neurol. Psychiat.						1	1	所蔵なし
109. Zbl. Chir.			1				1	"
*110. Zh. Nevropat. Psikhiat.		1					1	"
111. 国立栄養研究所報告		1					1	不明
112. 日本外科学会雑誌			1				1	"
*113. 日本総合衛生学会会誌						1	1	所蔵なし
*114. 脳と神経	1						1	紛失
115. 生物物理化学	1						1	所蔵なし
合計	53	34	20	12	12	17	148	

注 1: 誌名の省略は *Index Medicus* による。

注 2: * 印はカウンターで貸出要求に応じられなかった雑誌。

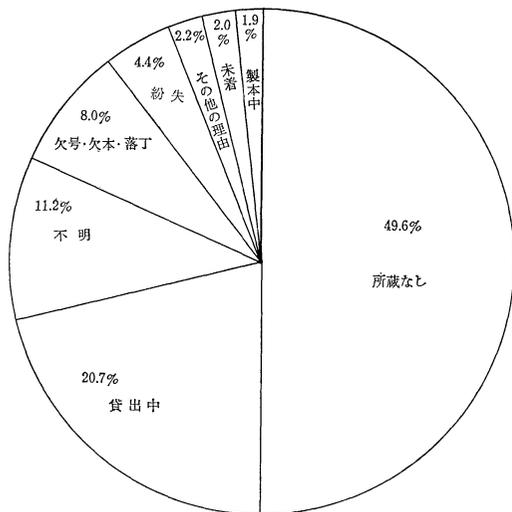
館外貸出要求に応じられなかった雑誌

第 12 表 調査期間中に相互貸借に依り他の
図書館から借りた雑誌

項 目	タイトル数	%	冊数	%
所 蔵 な し	94	81.0	124	83.8
欠号・欠本・落丁	10	8.6	12	8.1
不 明	8	6.9	8	5.4
紛 失	3	2.6	3	2.0
その他の理由(L.B.)	1	0.9	1	0.7
合 計	116*	100	148	100

*注 1. 1 誌は“所蔵なし”と“欠号・欠本・落丁”の両項目に含まれているため累計 116 誌となる。

第 1 表及び第 2 表をみると、貸出要求を満足させることが出来なかった 498 冊中、最も多い理由は 247 冊、49.6%の“所蔵なし”で、図書館が充分には雑誌を所有していないことを意味している。次は貸出中の 103 冊、20.7%で、図書館の利用が盛んになればなる程この数は当然増してくる。盛んに利用され、役に立つことが図書館の



第 2 図 貸出要求を満たせなかった雑誌の理由別百分率

目的ではあるが、その半面、理由が“貸出中”という利用を意味したものであるにしても、貸出要求をことわられる立場の利用者にとっては、その場合に関する限り“所蔵なし”と同じであると言えよう。確かに、次の番の貸出を予約して最大限 1 週間待てば、求める雑誌を使用することが出来るが、同期間中の記録が示すとおり、カウ

ンターで貸出要求を満足させられなかった雑誌のうち、わずか 17.1% が相互貸借を利用しているに過ぎないことを考えると、残りの 82.9% の場合には、その場で資料を入手出来なければ役に立たなかったことになり、或程度利用要求のある雑誌は、相互貸借の助けを期待せずに、出来る限り自分の図書館でも所蔵するように努力する必要があることを痛感させられる。

次は“不明”の 56 冊、11.2%であった。“不明”とは記録上図書館が所蔵している筈の雑誌が、貸出要求を受けた時所在不明であったことを意味する。通常図書館内で閲覧されているのでない限り、所定の棚から資料が動かされた場合は、それが貸出中の場合は勿論製本のためであっても、複写のためであっても必ず貸出のカウンターのファイルにカードが入ることになっているのであるが、使用された後に所定の棚に戻し損ねて間違った場所に戻されたり、紛失してもその紛失が確認されていなかったりした場合などに“不明”が起り得る。そしてこの場合は熟練した館員が徹底的にあらゆる可能性を探ることになる。北里記念医学図書館でカレントに入手している雑誌のタイトル数だけでも 1,500 を超えていること、コンテンツ・サービス、雑誌の展示、教室回覧、文献分析などの特殊サービスのために雑誌が図書館に到着してから棚に配架される迄の複雑な流れ、製本・複写などのための動き、その上蔵書総冊数の 80% をこえるほどの激しい利用などを考えると、所定の棚の上から行くえが不明になる雑誌が出て来るのも考えられることではあるが、“不明”という理由こそ図書館として是が非でも最小に食いとめたい種類のものである。その点で、この項目のものが、“所蔵なし”、“貸出中”に次いで第 3 位を占めているのは予想外であった。

第 4 番目の項目の“欠号・欠本・落丁”などの理由により館外貸出要求に応じられなかった雑誌は 40 冊、8.0%であった。これは“落丁”を除いては、バック・ナンバーの補充が可能な図書予算があるかどうかにかかっているので、図書館管理の良し悪しには関係がないが、“落丁”は雑誌の各号が到着した時のチェックの不十分のために起ることであり、このために利用者の要求を満足させ得ないことは図書館側でももっと考えねばならない。

次は“紛失”の 22 冊、4.4%。“紛失”する資料は少くとも一度は使用された資料であり、それだけに利用度の高い資料でもあり得るので、“不明”と共に是非最少におさえたい項目である。しかし激しい利用の間には“紛失”というものは当然起り得るのであるから、明らかに“紛

失”と認められた場合には出来るだけ早くこれを補充して、貸出要求をこの理由で満足させ得ないようなことがないようにすべきである。

“未着”という理由のものは10冊、2.0%であった。医学・化学の重要雑誌のコンテンツ雑誌 *Current Contents* を航空便で入手しているため、雑誌自身の到着以前にその内容が判明していることも、“未着”の雑誌に対しての貸出要求となる原因の一つと考えられる。

“製本中”の9冊、1.8%は、時期的にあって特に製本が重なる時期でなかったからで、3月、4月頃の様 monthly 刊誌を製本する時期に当れば、この数はより大きくなるであろう。

“その他の理由”の中には、回覧雑誌として部局に回覧中のもの、館内で閲覧中、予約の申込みがなされていて貸出に応じられなかったもの、それに図書館地下の製本室で仮製本中のものなどが各々2~3冊ずつあり、その合計が11冊、2.2%であった。

また第1表と第2表が示しているように、館外貸出に応じられなかった498冊中365冊、73.2%は“所蔵なし”、“欠号・欠本・落丁”、“紛失”、それに“不明”と、図書館に完全に資料がないか、またはこれに準ずるもので、残りの133冊、26.7%は一定期間さえ待てば提供出来るものであった。

ここでの和雑誌76冊と洋雑誌422冊の割合1.0:5.6は、調査期間中の雑誌の利用数——和2,184冊に対する洋7,432冊より開きが大きく、外国雑誌のほうが館外貸出の要求を満足させなかった率が高かったという結果を示している。

所蔵なし

“所蔵なし”という理由で館外貸出の要求に応じられなかった雑誌は、冊数にして247冊(洋雑誌228冊、和雑誌19冊)、タイトル数にして、洋160誌、和17誌で、このうち2冊以上貸出を申込まれた雑誌は、洋44誌、和2誌で、最高は6冊であった。ところで、“所蔵なし”の範囲は前述のように a) 当館で全く所蔵されていないもの、b) 一定の期間内のみ所蔵しているもの、c) 現在購入しているが、一定の期間、中断していたもの、の三者を含んでいる。例えば6冊申込みがあった *Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics* は、1934年から1949年迄購入が中断されていて、館外貸出要求に応じられなかったのはこの期間の巻号に対して

であった。“所蔵なし”として貸出要求に2冊以上応じられなかった洋雑誌44誌中、26誌は現在図書館が継続して入手している雑誌であった。

第4表にみられる通り、2冊以上の要求のあった洋44誌、112冊、和2誌、4冊の巻号を刊年別にみると、雑誌の貸出頻度の記録同様、最近5年分の雑誌が最も多く、全体の4分の1をやや上廻った26.7%となっている。以下古くなるごとにその率は下っている。ただし1944年から1940年の5年間は、そのあとの1949年から45年の7.8%を遙かに上廻る15.5%という率を示していた。この年代は丁度第2次世界大戦の時期に当り、この間の洋雑誌は入手が中断されていて、戦後もこの穴をうめることがむずかしく、予算もなかったため、現在でも重要雑誌の多くを含めた雑誌のこの期間の巻号が所蔵されていないための現象と思われる。また一般には最近5年間の巻号の利用が50%を上廻っているのが普通であり、1963年後半より1964年初めにかけて当図書館で行った調査¹⁾では55%となっており、15年分のバック・ファイルで雑誌利用の約90%をまかない得ることが判明したが、貸出要求に応じられなかった雑誌の場合には、最近5年間の巻号はわずか26.7%、最近15年分をとっても70.7%と利用頻度調査の率を大きく下廻っていた。このことは図書館の蔵書の構成で古い年代の巻号に“所蔵なし”が多く、カレントの雑誌は比較的によく備っていることを暗示している。

欠号・欠本・落丁

“欠号・欠本・落丁”などの理由で館外貸出要求に応じられなかった雑誌の巻号の刊年別集計は第5表のとおりである。

この項目の冊数の一番多かった *Annals of the New York Academy of Sciences* は刊行の仕方の非常に特異な雑誌で、不定期である上、同時に何巻も未完の状態を出されており、各巻の完了も必ずしも順を追っていないため、管理・製本・記録などのむずかしい雑誌ではあるが、利用度も高い重要なものなので、この雑誌に対する貸出要求に欠号・欠本・落丁などの理由で、調査期間約2ヶ月の間に4冊も応じられなかったのは図書館として大いに検討を要する。しかしこの雑誌に関しては“未着”のものを欠号・欠本と間違い易いことも事実である。32誌、40冊は、貸出要求を満足させ得なかった総冊数498冊の8.0%に当り、さして大きい率を占めているわけで

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

はないが、“欠号・欠本・落丁”という理由は、雑誌の管理上次の“不明”、“紛失”などと共に最小限におさえておきたいものであり、これらが発見された場合には速かに補充しておくべき性質のものである。

今、巻号の刊年別にみると、1959年から1955年にかけての雑誌に“欠号・欠本・落丁”が特に多いのが目立つ(全体の42.5%)。この事実は、この時期の図書館の雑誌の整理保管になんらかの欠陥があったのではないかということ想像させる。

不明

前述のように、“不明”とグループ分けされたものの中には当然既に“紛失”してしまっているものもあり得るが、館内利用の際に利用者が間違っただけに返却したり、貸出、製本その他の理由で所定の棚から動かされた時に記録もれがあったりして、所在不明になっているものもあり得る。どの場合にしても、カレントの雑誌だけでも1,500種もある当図書館の数多い雑誌が、その年間館外利用冊数7万を超える程はげしく利用されれば起り得ることには違いないが、しかしそれは管理上なんらかの欠陥によって起ったことに変わりはなく、貸出の記録の取り方をより正確にし、書架の整頓、管理を改良し、雑誌の取扱いにさらに一層の注意を払えば、この数をより少なくすることは可能であろう。

この“不明”のために貸出要求に応じられなかった42誌、56冊の大多数が利用率の高い雑誌であったが、これを巻号の刊年別に集計した第6表に依ると、“不明”の50%以上が最近5年間の巻号であり、利用の激しいものが“不明”になる率の高いことは当然予想出来たが、ここにはっきりと表明されている。また和雑誌の古い巻号に“不明”が皆無なのは、和雑誌の補充が洋雑誌の場合より楽であるためばかりでなく、その利用が特に最近のものみに集中する傾向があるためにもよろう。

紛失

“紛失”のために貸出要求に応じられなかった22冊、16誌を、巻号の刊年別に集計した第7表から、“欠号・欠本・落丁”の場合同様に、殊に洋雑誌の1959年から1955年迄の間の巻号の紛失が多いことが判明した。この時期の雑誌の管理に欠陥があったのではないかという想像をさらに裏書きした。

貸出中

“貸出中”という理由で貸出に応じられない場合は、そ

の時その雑誌がないということに於いては“所蔵なし”と同じであると考えられるので、どんな雑誌にどれ程の頻度で起るものなのかを知り、2部以上購入すべき雑誌の順位と範囲を決るときの参考とすることは、本調査の主要な目的の一つであったが、同時に、雑誌の利用頻度調査が、通常実際に借り出されたり、複写されたりした雑誌の記録のみを対象としていて、貸出中に申込まれたものは考えられていないという欠陥を補うことにもあった。

この項目に属する総冊数は103冊(洋80冊、和23冊)、71誌(洋56誌、和15誌)で、これを巻号の刊年別に集計した第8表より、最近5年間以内の巻号のものが圧倒的に多く、70.9%(洋65.0%、和91.3%)にも及ぶことが判明した。ところで、1963年後半から1964年の始めにかけて行われた雑誌の利用頻度調査の結果判った最近5ヶ年間の巻号の利用は、利用総冊数に対し洋雑誌で約55%、和雑誌で約70%であったから、最近5年間の巻号に対する実際の要求は、貸出・複写などの記録のみから作成される利用頻度調査の利用率を上廻っていることが判る。

1964年2月1日より9月30日迄の8ヶ月間の館外貸出、複写及び相互貸借などの形で利用された雑誌の記録から集計した利用頻度調査と、1963年10月1日から1964年1月31日までの4ヶ月間の調査の両方の結果を前調査での上位20位迄の雑誌をとって比べてみた上、これらの雑誌について本調査(約2ヶ月半)の間に“貸出中”のため利用に応じられなかった冊数を調べてみると第13表のようになった。ここで雑誌名の前に○印のあるものは、利用頻度が特に高いため、1964年1月から2部購入し始めた雑誌で、従って一番利用の集中する最近刊(1964年)の巻号に対する貸出要求に応じられなかったケースは1部しか購入していない雑誌に比べて減少している筈である。調査期間の長さに8ヶ月、4ヶ月、2ヶ月半と違いがあるので、そのままでは比較は出来ないが、上位20誌中16誌迄は前回(1963年10月1日より、1964年1月31日迄)の調査でも上位20誌の中に入っていたもので、両調査とも1位は圧倒的に他を引き離して *Journal of Biological Chemistry* が占め、次が *Journal of the American Medical Association* となっている。ところでこの20誌中14誌、22冊が2ヶ月半の本調査の期間中に“貸出中”という理由で貸出に応じることが出来なかった。これはこの理由のために貸出に応じられなかった洋雑誌56誌80冊のうち、タイトル数では28.0%、冊数では27.5%

第 13 表 雑誌利用頻度調査と“貸出中”のため利用要求を満たせなかった冊数

誌名	1964年2月1日 より1964年9月 30日までの調査 (8ヶ月)		1963年10月1日 より1964年1月 31日までの調査 (4ヶ月)		1964年10月19日 より1964年 12月31日まで に貸出要求を満 たせなかった冊 数 (2ヶ月半)
	順位	利用冊数	順位	利用冊数	
○Journal of Biological Chemistry	1	520	1	187	1
○Journal of the American Medical Association	2	392	2	141	0
Biochemical Journal	3	389	6	106	2
○Lancet	4	318	4	117	1
○Proceedings of the Society of Experimental Biology and Medicine	4	318	7	95	1
○Journal of Clinical Investigation	6	285	5	110	0
American Journal of Physiology	7	277	15	73	0
Surgery, Gynecology, and Obstetrics	8	253	12	81	1
Annals of Surgery	9	252	15	73	1
○Nature	10	227	8	92	0
Surgery	11	226	26	53	1
○British Medical Journal	12	220	9	89	1
○New England Journal of Medicine	13	205	3	121	5
Pediatrics	14	197	11	82	1
Journal of Experimental Medicine	15	190	54	35	1
Biochimica et Biophysica Acta	16	186	19	72	0
American Journal of Medicine	17	185	13	77	4
Journal of Laboratory and Clinical Medicine	18	178	32	48	1
American Journal of Obstetrics and Gynecology	19	173	21	65	0
Science	20	171	13	77	1

注. ○印は2部購入の雑誌。

となり、4分の1以上のものがこの20誌のうちに集中していることが判る。

現在北里記念医学図書館がカレントに入手している雑誌は1,521誌(洋972誌, 和549誌)にも及ぶが、その利用は限られた特定のタイトルに集中し、“貸出中”という理由で利用に応じられないものもそれらの雑誌である。つまり、2部以上の購入を必要とする雑誌の数は非常に限られている。

製本中

前述のように調査期間が製本に多くの雑誌を送り出す時期からずれていたため、この理由で貸出に応じることの出来なかった雑誌が非常に少なかった(9誌, 9冊)。しかし現在当図書館では1年約2,200冊(洋1,700冊, 和500冊)の雑誌が製本されており、丁度この調査期間中に、

平均2乃至3週間の長さで、製本のため外部に出されていた雑誌数は383誌(洋295誌, 和88誌)と推定されている。以上から、製本に出される雑誌の数は年間を通じてひどい変化はなく、また外部に資料が出されている期間も短いので、“製本中”の雑誌が利用者に要求される数は左程多くないことが判った。

未着

未だ図書館に着いていない最近号に対する貸出要求は第9表のとおりで、8誌(洋4誌, 和4誌), 10冊(洋4冊, 和6冊)であった。このうち *Ergebnisse der Physiologie, Biologischen Chemie und Experimentelle Pharmakologie* は国内取扱店のミスで入手が遅れていることが判った。また *Newzealand Medical Journal* は発行の遅れのためであった。和雑誌4誌中の1誌、「条件

館外貸出要求に応じられなかった雑誌

「反射」は入手が不定期であるのと、入手それ自体に問題があったが、他の3誌については調査期間中別に何の事故もなく入手しているので理由が不明であった。考えられることは、この3誌中2誌が薬学関係の雑誌であり、この面では特に新しい情報に対する要求が強いので、現在和雑誌の購入に用いている取扱店を通じての一括購入方式だと、どうしても程度入手迄に時間的遅れを生じているので、これがその利用に不便を与える結果になっているかも知れないことである。

その他の理由

“その他の理由”で利用に応じられなかった雑誌は8誌、11冊(洋5誌、8冊、和3誌、3冊)で、その内容は第10表のとおりであった。

ここで問題は教室回覧中の1誌に3回も申込みがあった点で、多分にこの雑誌の回覧期日が守られていなかった恐れがあり、現在のように図書館の資料の利用が盛んになってくると、殊にその利用が集中する新着雑誌を教室に回覧することには非常な疑問が出て来る。やはり2部以上入手していない雑誌は回覧を中止するといったような手を打たねばならない時期が来たのではないかと思われる。また図書館内での仮製本中(L.B.)のため利用に応じられなかった雑誌が2冊もあったのは、仮製本に廻っている期間の長さの妥当性について一考の要があることを示唆している。

以上が貸出要求に応じられなかった雑誌の記録の分析であるが、次に貸出の要求が図書館の蔵書のみではかなえられなかった時に、そのうちどのくらいの雑誌が相互貸借を利用して他の図書館から借り出されているか、またそのうちどれ程が国内の図書館では間に合わず、米国立医学図書館から複写コピーで送って貰っているかを調べるため、本調査中に相互貸借により借り出した雑誌をその冊数順に一覧表にしたのが第11表である。総数115誌、148冊のうち、前述のとおり65誌、84冊(57.4%)は貸出のカウンターで利用者の要求に応じられなかったもので、これはその総冊数498冊中17.0%となり、“所蔵なし”、“欠号・欠本・落丁”、“不明”、“紛失”などの理由のため、もともと当図書館の蔵書では間に合わない種類の雑誌について要求され、その利用に応じられなかった365冊に対しては23.0%という率になった。なおこのうちの3冊は米国立医学図書館から複写のコピーを送ってもらったものである。残りの63冊は、利用

者が何らかの方法で予めその雑誌が当図書館に所蔵されていないことを知って、カウンターで尋ねることなしに直接相互貸借係に申し込んだものである。即ち相互貸借の組織が完全に備っていて、一つの図書館に求める資料がなくても、一定の日時を待ちさえすれば必ずその資料を入手することが出来るようになっていても、利用者が要求する資料がその場に無ければ役に立たなかったケースが、利用を満たさなかったケース全てに対して、少くとも77.0%以上もあり、医学の研究に於ては、資料を必要とする時にはすぐその場で必要であり、待つことの出来ない場合が非常に多いことが想像できる。それで図書館としては、その利用者が必要とする資料は出来るだけ多く備えるように努力すべきであろう。しかしながら現代のように、出版物が洪水のように増えてくる状態では、個々の図書館で入手し得る資料は非常に狭い専門分野に於ても限度があり、必要とあればその図書館の所有していないどんな資料でも、相互貸借の組織によって最終的には必ず入手出来るようにしておくことが必要である。

相互貸借により入手した115誌、148冊の雑誌を、利用に応じられなかった理由別に集計したのが第13表であるが、当然のこととはいいながら、その理由は、図書館内仮製本中の1冊を除いて全てが“所蔵なし”、“欠号・欠本・落丁”、“不明”、“紛失”といったような、一定の時期を待っても当図書館の蔵書のみではどうにもならない雑誌ばかりで、しかもそのうち95誌、124冊(83.8%)は“所蔵なし”の雑誌であった。

VI. 結 論

北里記念医学図書館で求められた雑誌で貸出に応じられなかった冊数は、1964年10月19日から1964年12月31日迄の開館日67日間に498冊に達し、その間の雑誌の館外利用総冊数は複写を含めて9,616冊であるので、貸出要求を受けた総数は10,114冊となり、その4.9%に当る。利用に応じられなかった理由による内訳は、“所蔵なし”247冊、“貸出中”103冊の他、“欠号・欠本・落丁”、“不明”、“紛失”、“製本中”、“未着”、“その他の理由”など合せて148冊となっている。即ち、利用に応じられなかったケースの約半数は、要求された資料を図書館が所蔵していない場合で、残りの半数近くの20.7%は求められた資料が“貸出中”であったためであった。この両者以外の148冊の場合は、“その他の理由”の中に含まれた“閲覧中”、“部局に回覧中”など、使用されてい

たために要求に応じられなかった雑誌8冊を除いた140冊が、管理の方法を改善すれば或程度少くすることの出来たものであった。

“貸出中”という理由で利用に応じられなかった雑誌103冊、71誌の内訳は、洋雑誌が80冊、和雑誌が23冊で、これらの洋雑誌の65.0%、和雑誌の91.3%が最近5年以内の巻号に集中しており、また雑誌それ自身も利用率の高いものに依って占められていた。例えば、1964年度に集計した雑誌の利用頻度順リストの上位20位迄の雑誌のうち14誌は、本調査の期間約2ヶ月半の間に1回以上5回迄の回数で“貸出中”という理由で利用に応じることが出来なかった。即ち、利用度の高い、限られた数の雑誌の最近5年分の巻号を2部備えることが出来れば、この理由で利用に応じられないケースを大きく減少させることが出来ると思われる。

しかしまた一方、利用頻度の高い雑誌は必然的に“貸出中”のために利用に応じられないケースが多くなるが、その数は調査前に予想された程多くはなく、約2ヶ月半で5冊が最高で1誌、4冊が2誌、3冊が2誌、後は全部2冊以下であったので、利用頻度調査のリストの順にはほとんど影響のないことが判った。

貸出要求に応じられなかった雑誌498冊のうち、これが相互貸借の組織を通じて他の図書館から借りて利用さ

れたものは85冊、17.1%で、なおそのうち3冊は国内の図書館に所蔵されていなかったため米国立医学図書館から複写のコピーで送って貰ったものであった。この相互貸借の利用率の低さから、医学の分野では、必要な文献はその時に必要なものであって、相互貸借の過程に要する1週間以上の時日を待つことが出来ない場合の多いことが想像できる。またこの調査期間中に他の図書館から雑誌を相互貸借により借り出すことを要求されたケースが148冊あり、そのうち63冊、42.6%は利用者自身が当図書館にその文献が所蔵されていないことを何らかの方法で予め調べていて、貸出のカウンターで尋ねることなしに直接相互貸借に申し込んだものである。このことから、今回の利用に応じられなかった雑誌の調査で実数として現われたものの他に潜在的なものも相当存在していることが推測できる。

最後に、この調査の実際の記録を行った中村益夫君を始めとする北里記念医学図書館の貸出係の諸君及び、集計を行った栗原美保子君に感謝の意を表したいと思う。

- 1) 津田良成. “北里記念医学図書館に於ける雑誌の利用調査,” *Library science*, no. 2, 1964, p. 119-57.